



札幌大学孔子学院

062-8520 札幌市豊平区西岡3条7丁目3番1号

## 第6回札幌大学孔子学院講演会

日時：平成19年12月1日(土) 14:00~16:00

場所：札幌大学サテライトキャンパス  
(札幌市中央区北5西5 sapporo55ビル 5階)

演題：『乾隆帝——その政治の図像学』

講師：中野美代子氏 作家 中国文学者

### 〔講演要旨〕

この「ケンちゃん」という青年は、25歳で一家の家長になったとたん、「えなかったおじいちゃんは、61年間も家長をなさり、この一家をみごとに繁栄させてくださった。ならばボクも、その偉業をひきつぐけれど、おじいちゃんの61年は超えてはならぬ。60年でせがれにひきつがせるぞ」と決心したのでした。そして、そのとおり実行したのです。25歳プラス60年イコール85歳。18世紀、中国のことです。

ここ10年あまり、中国は清朝の第6代皇帝である乾隆帝とその周辺の宮廷画家たちに関心があったものですから、私はいつしかかれのことを「ケンちゃん」と呼ぶようになりました。

さて、ところで「ケンちゃん」こと乾隆帝が、みずからの治世を60年に限定した、つまり乾隆60年をもって退位すると、即位後まもなく心に決めたのは、冒頭にのしるしたように、祖父である康熙帝の在位61年を超えてはならぬという、祖父帝への尊崇の念に発しているのですが、そうはいつでも、60年も在位したら、皇統はどうなるのかという問題が生じます。

康熙帝はまだしも8歳で即位したので、古希にならぬうちに崩じましたが、それでもその第4皇子は即位したとき45歳になっておりました。これが乾隆帝の父たる雍正帝です。

果たして、雍正帝の治世はわずか13年、おかげで乾隆帝は25歳という「適齢期」で即位できたのです。しかし、乾隆帝が退位する85歳になったとき、皇子たちもかなり高齢化しているのではないか、という問題がのこります。いや、それよりも、果たして85歳まで生きられるかどうかという問題も……



## 札幌大学孔子学院

062-8520 札幌市豊平区西岡3条7丁目3番1号

---

そのころの皇子たちは、おおむね10代で結婚いたしましたから、なかなかの子だくさんです。康熙帝には、なんと！35人の皇子が生まれました。もっとも夭折したのも多く、それでも崩じたときには24人の皇子がおりました。乾隆帝が即位したときは、すでに3人の皇子がおりましたが、さて乾隆60年まで何人に増えるか？ 皇子は全部で17人もうけましたが、退位したときには、4人のこっただけでした。

この皇帝は、清という王朝は、皇帝が25代、500年つづけばよいと願っておりました。中国の長い歴史をふりかえりますと、易姓革命（皇帝の姓を易え、天命を革める）の連続でしたから、かれとても「万世一系」という幻想は抱きませんでした。それでも、25代の皇統を維持するためにはどうすればよいか――。

どうすればよいのか、といったって、つまるところは、各代の皇帝の「生殖力」にかかるわけですが、そのことを十分に認識しつつ、この皇帝は「25代500年」という「終末」を見すえながら、かれなりの政治戦略を立てていたのです。

政治戦略といっても、当節の政治屋さんたちの「談合」とはちがいます。虚構の肖像画や途方もない造園事業のなかにこそ、遠大な政治戦略はひそんでいたのです。

今回の講演では、カラスライドを使い関連の絵画や庭園の構造を読み解くことにいたします

（『本の話』2007年5月号所載の拙稿「ケンちゃんの皇統戦略」を一部省略）